

## 質の高い教育の実現性について ～現在求められている力を養うには～

### ～アブストラクト～

私達はSDGS<sup>1)</sup>の四番目の項目である「質の高い教育<sup>2)</sup>をみんなに」に興味を持ち、「質の高い教育の実現性について」というテーマで探究活動を行った。僕たちはフィンランドの教育がPISA<sup>3)</sup>という国際学力調査で読解力、科学的リテラシー<sup>4)</sup>、数学的リテラシーの3つの分野で好成績を残しているということを知った。その中でも、読解力に着目して探究活動を進めた。僕たちは読解力を、情報の真偽を見抜く力、複数の資料を比べて読む力、心を読み取る力、意思決定の力の四要素から成り立っていると定義した。また、従来仙台三高で行われていた読解力向上プロジェクトには時間に対して量が適切でない、単に文章から答えを抜き出す問題が多い、といった不十分な点があったことを思い当たった。そこで、読解力向上プロジェクト改良版の作成に踏み切った。実際に作成した後計三回実施したところ、従来のものよりも読解力を用いている実感があったといった声や読解力は社会に出てから必要になってくる力であるが鍛えることができるということを学んだといった声など、改良版を支持する意見が多数寄せられる結果となった。現在の社会に求められている力を養成するのは、学校などの教育機関が狙いとしていることであると推測できた。また、現在AI<sup>5)</sup>が人間に取って代わるものとして目覚ましい発展を遂げているが、私達が定義した読解力のような現在求められている力を着実に身に付けた者が現代社会で生き延びていくのだろう。

キーワード 質の高い教育 現在求められている能力 読解力 SDGS 現代社会

### 〇はじめに

僕たちは現在注目されている持続可能な開発目標 (SDGS) と結びついたテーマで探究活動を行いたいと考えた。高校生という立場でありながら、社会に貢献できる成果を出せるようなテーマを模索していたさなか、班員が共通して調べたいと思ったのは教育についてだった。sdgsの中にも、「質の高い教育をみんなに」という項目があったのが決定打であった。教育というテーマはかなり抽象的であったので、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーという3つの分野に絞った。読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーを測定するためにOECD(経済協力開発機構)が設置しているPISAという国際学力調査の結果によれば、フィンランドが全体で一位の結果を残しているようだ。そういった事象を考慮していく中で、僕たちが最も興味を持ったのは読解力であったので、読解力について調べを進めていくことに決めた。僕は、読解力を単に読んで理解する力と認識している人が多くいるのではないかと考えている。そんな曖昧な認識を正すために僕たちは読解力を自分たちなりに捉え直し、従来行われていた「読解力向上プロジェクト」の是非を検討し「読解力向上プロジェクト改良版」を提案した。

上の記事からは、技術革新が急激に進んでいる現代社会において、デジタルを担い現在求められている力を持つ人材が必要とされることが読み取れる。

河北新報 2024年 7月13日 土曜日

### ○研究方法

・読解力に関する探究活動を行っていく中で、僕たちが1年生のときに読解力向上プロジェクトを行っていたことに気づき、従来の読解力向上プロジェクトは読解力を十分に高められるものであったのかを検討した。

- ・読解力の定義付け
- ・従来の読解力向上プロジェクトの再検討
- ・読解力向上プロジェクト改良版の提案 実施

・プロジェクト改良版における考察

### ●読解力向上プロジェクト改良版の実施方法

自分たちが作った以下の読解力向上プロジェクト改良版のイメージ図を参考にし読解力向上プロジェクト改良版を作成し、クラスの生徒を対象に計3回行った。



まず僕たちは、読解力を現在求められている能力として、情報の真偽を見抜く力、複数の資料を比べて読む力、心を読み取る力、意思決定の力の4つに定義した。このモデルの作成にあたって工夫した点は、実施時間に対して量が適切であること、文章に関する図表を取り入れること、要旨を捉える問題と考えを述べる問題の二問で問題を構成することが挙げられる。ただ、これだけだと「心を読み取る力」が不足してしまっている。そのため、ペアワークもしくはグループワークを取り入れた。意見を共有する際に

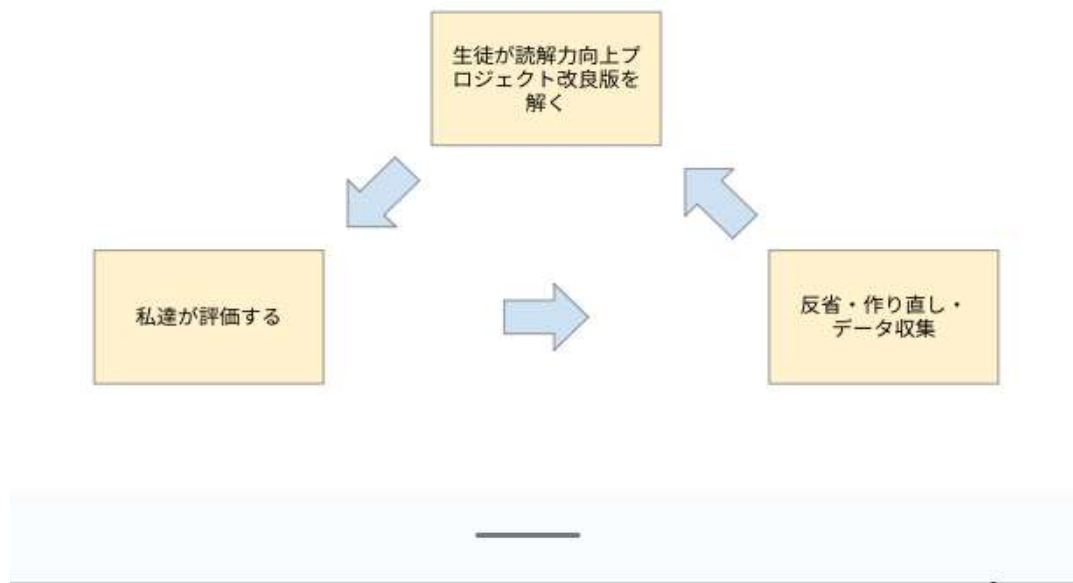
は相手の意見に耳を傾け相手の意見を理解することが求められるため、読解力が用いられると考えた。また、相手の心情を読み取り、話すスピードや話し方を変えなければならないので、その場面においても読解力が用いられると考えた。以前実施されていた読解力向上プロジェクトは、実施時間に対しての文量が適切ではなく読解力というよりは速読力に重点を置いてしまっているように思われる点があった。また、単に文章から該当箇所を抜き出すだけの問題が多くあったりして読解力を十分に高められるものであるとは言えなかった。このような点を考慮しモデルを参考にして、読解力向上プロジェクト改良版の作成に取り組み、実施した。

(条件)

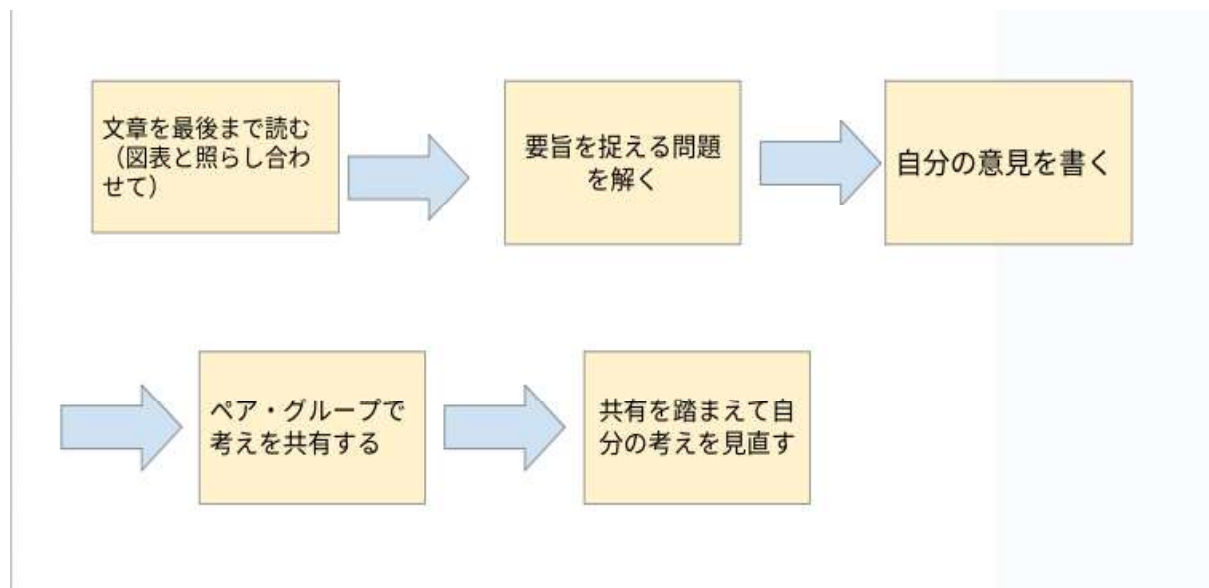
- ・実施時間20分間(グループワークの時間は含めない)
- ・グループワーク時には相手が誤って文章を捉えていたら指摘する。

(手順)

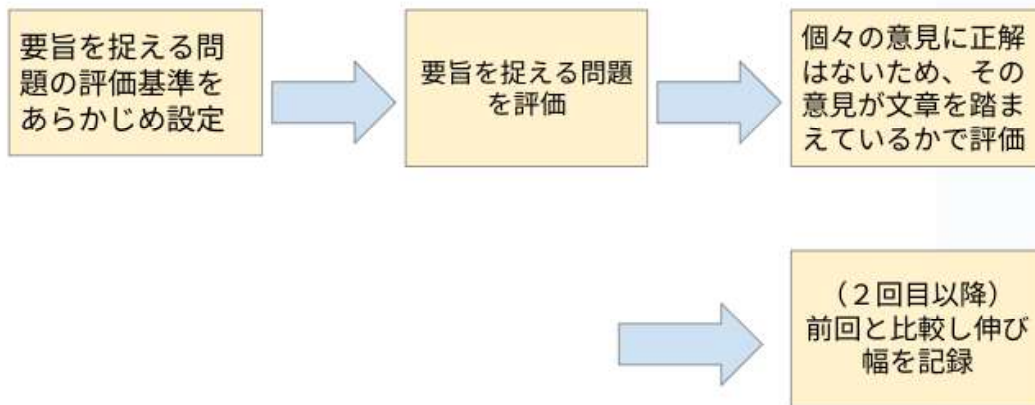
◎大まかな流れ



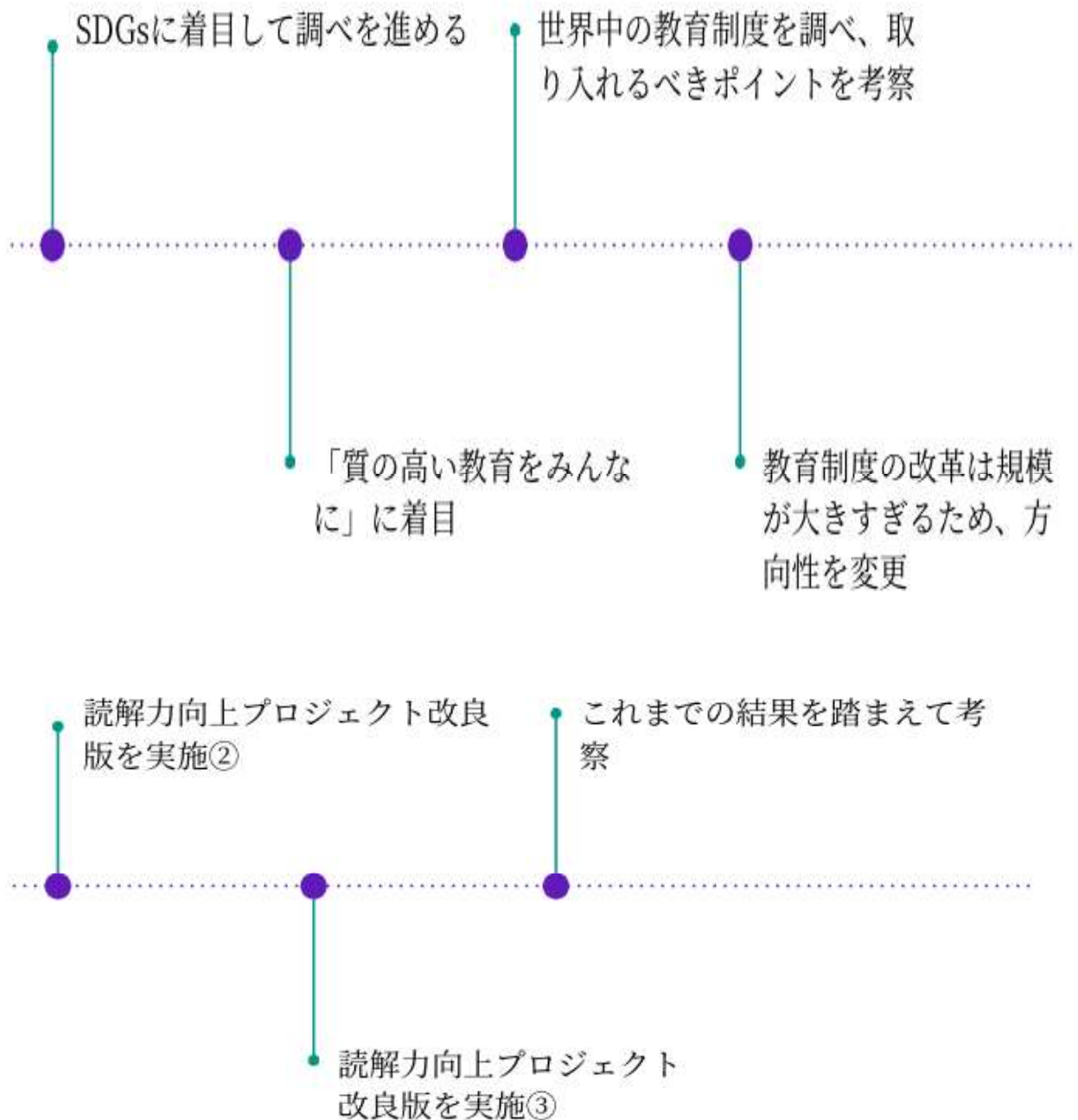
◎生徒が読解力向上プロジェクトを解くとき



◎私達が読解力の伸びを評価するとき



○研究過程(探究活動)



はじめはフィンランド等の教育を参考にし、教育制度の改革を探究活動の最終的な目標にするのも良いのではないかと考えていたが、あまりにも規模が大きすぎると感じ、読解力にのみ焦点を絞って探究活動を進めた。そこで、私たち六十回生が一年生の時に取り組んだことのある読解力向上プロジェクトに着目し、このプロジェクトが本当に現在必要とされている読解力を養うことにアプローチができているかを考えた。そこからは様々な改善すべき点が見つかり、それらの点をもとに読解力向上プロジェクトの改良版を作成した。このプロジェクトを三回にわたってクラスの生徒たちに実施し、その都度データを取り、評価を重ね、最終的に読解力の伸び幅を調べた。

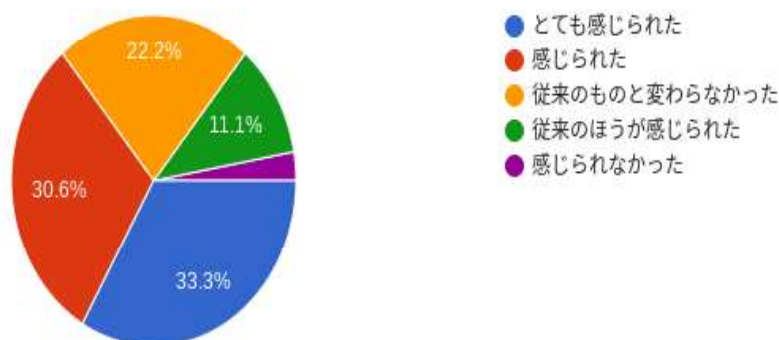
### ○班での考察

読解力向上プロジェクト改良版の被験者たちに従来の読解力向上プロジェクトとどちらがより現在求められている読解力を高められていたか尋ねたところ、被験者の約3分の2の人が改良版を支持する結果となった。改良版を支持した主な理由として、「プロジェクトを実施している際自分で事象についてよく考えなければならぬため、従来よりも頭を使っていたと感じた」や、「読解力には様々な定義があることわかり、社会で役立つ読解力は鍛えることができ、会得することができたなら対人関係などの様々な分野で他人よりも優位な立場に立てると実感できた」など、読解力について有用性を見出す回答が多く散見された。私達の考察では、読解力とはどういう力なのかを理解していない人が、プロジェクト改良版を通して実際に体験したことで読解力を用いている状態を理解したのだと考えた。そして、そこである可能性が思い当たった。これは、仙台第三高校の授業方針にかなり類似しているのではないかと考えた。私達は頻繁に授業でペアワークやグループワークを行い、授業で使うワークシートなども非常に凝った作りであることが多い。普段から私たちが受けている授業の目的は、社会に出てから必要になる力の養成なのではないか。私達は読解力を社会に出てから必要になってくる力であると定義したが、先生方もまた、社会に出てから必要になってくる力を先生方なりに定義し、僕たちに授業を提供してくれているのではないだろうか。仙台三高の生徒は、読解力向上プロジェクトのような活動を毎日行える環境に身を置いている点でかなりアドバンテージを得ているのではないかと考えた。このような環境を有効的に活用(授業第一に考えて学校生活を送るなど)していくことが三高生に求められているのではないかと考えている。

読解力向上プロジェクト改良版を受けて自分の読解力の伸びは感じられたか。



36件の回答



読解力には様々な定義があることわかり、社会で役立つ読解力は鍛えることができ、会得することができた時、対人関係などの様々な分野で他人よりも優位な立場に立てると実感できた

1件の回答

プロジェクトを実施している際自分で事象についてよく考えなければならないため、従来よりも頭を使っていたと感じた

1件の回答

#### ○個人の考察

読解力について調べを進めていく中で、その抽象的な性質に悩ませられることが多かった。質の高い教育の実現性というかなり広い意味を含んでいるテーマに設定したゆえ起こってしまったことであると思っ  
ているが、この抽象的な性質こそが読解力、さらにはその他の教育に関する事象を司るものであるのでは  
ないかと考えた。読解力は今後社会の中でますます重要視されていく力であることは言うまでもないだろ  
う。それ故に、学校を初めとする多くの教育機関で生徒の読解力向上の方法が模索されているが、どれ  
を抽出しても同じものはなくオリジナリティに富んでいることに気がついた。抽象的なものは、どの面から  
アプローチしていくかによって様々に姿を変えるため事象の考え方も様変わりしていく。そのため、視点  
を一つに定めて、設定した条件の範囲内で考えていくことが重要であるということがわかった。読解力一  
つをとっても様々な定義が考えられるだろう。ゆえに、どの定義・解釈が正しいのかということは一概には  
言えないものであると考える。正解がないからこそ、より良いものを生み出そうと大勢の人が模索してい  
く中で時間をかけて良いものになっていくのだと思う。

現代では人間に取って代わりうる存在としてAIの普及が急速に進んでいるが、そんな中で、私達が考え  
た現在求められている読解力である情報の真偽を見抜く力、複数の資料を比べて読む力、心を読み取る  
力、意思決定の力のような力を着実に身に付けた者が、社会で活躍していく能力を有しているとみなさ  
れていくだろう。

#### ○終わりに

二年間探究活動を行ってきて、困難に直面することが多くあったが班のメンバーで知恵を出し合いみん  
なで試行錯誤しながらなんとか探究活動の集大成を迎えることができた。私達が調べたテーマはかなり  
抽象的であったが、それ故に一つの事象を多面的に捉える力や抽象的な事柄を具体的な事柄に落とし  
込んで理解する力など、今後大学に行ったり社会に出たりしたときに重要になってくるであろう力をもに  
することができた。私達は読解力に焦点を当てて探究活動を行ったが、教育という分野には他にも科学  
的リテラシーや数学的リテラシーなどの様々な興味深い分野が存在していることがわかったので、時間  
ができれば調べを進めていきたいと考えている。特に科学的リテラシーなど情報に関連が深そうな分野は調  
べてみる価値が大きく、そこから得られるものも非常に大きなものであると考えた。また、私達は一年生  
のときに探究活動の一環として北海道北見北斗高等学校の生徒さんとの交流を行った。北海道の気候を  
生かした探究活動や三高生にはあまり見られない生物の研究など、ユニークな探究活動を数多く目  
にすることができた。そこで得た着想や探究活動の方向性は私たちの探究に大きな影響を与えた。そし  
て、班員全員にとって他県の人たちと交流するというのは初めての機会であり、各々がその経験から多くの刺激  
を受けた。個人的には、とても楽しい経験だったのでこれからは交流活動に積極的に参加していくことも  
考えている。

探究52班の活動にご協力いただいた北海道北見北斗高校様、河合塾大阪北キャンパス大阪校の職員  
の皆様、本当に有難うございました。

#### \*注釈

- 1)SDGS…「Sustainable Development Goals
- 2)質の高い教育…ここでは現在求められている力として定義している。
- 3)PISA…OECDによる国際学力調査。
- 4)科学的リテラシー…自然界及び人間の活動によって起こる自然界の変化について理解し、意思決定  
するために、科学的知識を使用し、課題を明確にし、証拠に基づく結論を導き出す能力
- 5)AI…Artificial(人工的・人造の)+Intelligence(知能・知性)の略称で、人間の知能を模倣するコン  
ピューターやシステムを指す

○参考文献

[https://www.all-different.co.jp/hrl\\_specialinterview/readingskill01.html](https://www.all-different.co.jp/hrl_specialinterview/readingskill01.html)

新井紀子先生による「社員の読解力不足」問題とは一より

<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/about/>

ユニセフホームページ

<https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/>

OECD生徒の学習到達度調査(PISA)



考えを述べる問題	要旨を捉える問題	
文章		